立ちどまらない保険。
MS&ADホールディングス
MS&AD INSURANCE GROUP

2022年度 IR Day 海外事業の成長戦略 ~MS Amlinの取組み~

> MS&ADホールディングス 執行役員 川手 環

> > 2022年10月4日(火)

MS Amlinの2022年度第1四半期の状況と通期見通し

- ■ロシア・ウクライナ関連ロスおよび急速なマーケット変動に伴う資産の評価損などにより、第1四半期純利益は前期 比△44百万ポンドの△93百万ポンドと低進捗に見えるが、おおむね計画通り。
- ロシア・ウクライナ関連ロスは年初に保守的に見込んだ水準(124百万ポンド)の範囲内で推移している。
- 資産運用益は要注意だが、リスクコントロールにより、運用利回りはロイズ他社比優位な実績。

不動産その他

運用資産計

6.359百万ポンド

9%

株式

6%

債券ファンド※(9,872 億円) (2021年12月末)

MS Amlinの10決算概要

(百万ポンド) 2022年度 第1四半期 前年同期比 正味収入保険料 1,398 125 保険引受利益 Δ66 △25 沓産運用指益 ∆35 Δ21 四半期純利益 Δ93 ∆44 EI コンバインド・レシオ 110.3% 3.9pt 95.5% $\triangle 10.9pt$ (除くロシア・ウクライナ関連ロス)

ロシア・ワクライナ関連ロスの影響			
		第1四半期	通期予想
インカードロス 影響	60	主に戦争危険を補償す る財物保険等に関する IBNR	60
不確実性への 備え	35	不確実性に備えるため の準備金	64

足元の状況:

33%

債券

18%

事態は長期化しているが、現時点、ロスは年初の想定内で推移。 種目毎のリザーブ見直しを実施しているがロス拡大の動きなし。

ロシア・ウクライナ関連ロスの影 響を除けば、安定的な利益が確 保できるコンバインド・レシオ水準 を達成

> ※債券ファンドは、割高な債券を売却し、割安な 債券を購入することを基本戦略としたファンド (ボンドゼロデュレーションファンド:BZD)。 全般的な金利上昇による損失を抑えつつ、 信用リスクテイク等を行う。

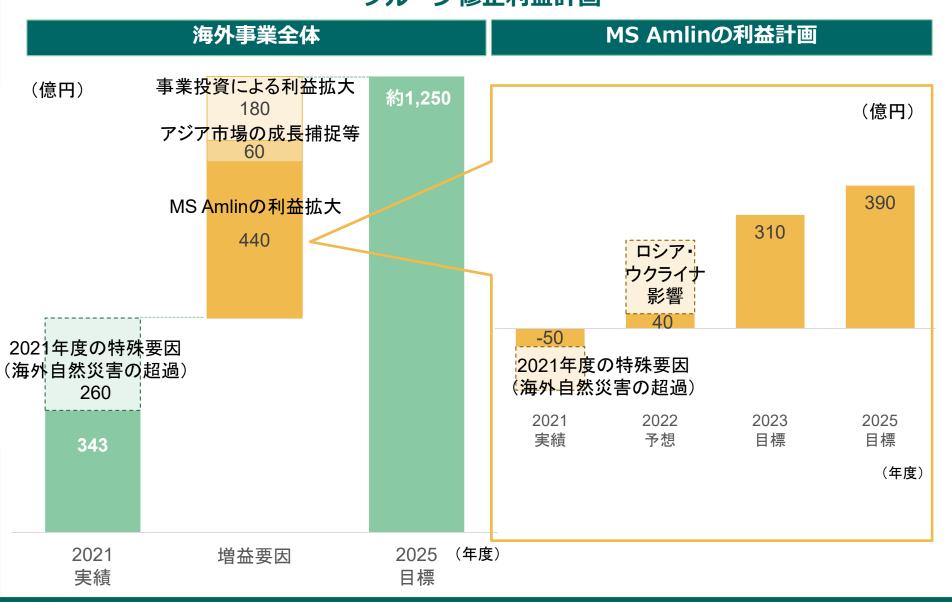
資産運用の状況



- ➤ BZDを選好したことや 債券デュレーションを抑 制的にしたことで相対 的に金利上昇による損 失は軽微
- ▶ 株式ヘッジプログラムに より、株価下落影響を 一部緩和

中期経営計画期間中の利益拡大計画

グループ修正利益計画



MS Amlinの今後の方向性

「Vision 2021」での到達点

AUL: 一般リスクの改善はおおむね完了

AAG[※]: 過年度ロス対応は完了

AISE: 安定した成績を確保できる体制を構築

今後の方向

2020年1月の海外事業再編を経て、旧MS Amlin持株や組織横断的な引受管理体制を解消し、各社の強みを活かした自立的な成長を追求

AUL

MS Amlinブランドの知名度や人脈、その専門性やノウハウ等を活用して成長を追求し、規模・収益力双方でロイズシンジケートのトップクラスを目指す。

AAG^{*}

顧客単位の中期的な収益性判断を軸にポートフォリオを再構築し、世界の主要再保険者としてのプレゼンスと、ROE10%超の安定的な収益を確保する。

AISE

強みを持つマリン種目や高い専門性を有するニッチ分野の拡大により、 トップラインの成長と安定的な収益基盤の構築を目指す。

※2022年9月より、新たなブランド「MS Reinsurance」を導入しており、今後は同ブランドを使用していく。

AULのポートフォリオ改善

- AULは自然災害リスクに関するエクスポージャーの削減とポートフォリオの組み替え・収益性向上を進めた。
- 不採算種目からの撤退や料率引上げ等の取組み、業務効率化によるコスト削減により、収益構造は着実に改善している。

自然災害リスク量の削減状況

- 自然災害リスク量の削減を継続し、ポートフォリオを改善。
- 2021年に発生した大型ハリケーン・アイダの再来を想定した モデル試算ロス(正味)では、2018年対比で約65%削減。

一般リスクのポートフォリオ改善状況

- 一般リスクの収益性は大幅に改善している。
- 引受厳選を継続し、自然災害リスクのボラティリティを吸収できるポートフォリオの構築と、引受利益の拡大・最適化を目指す。

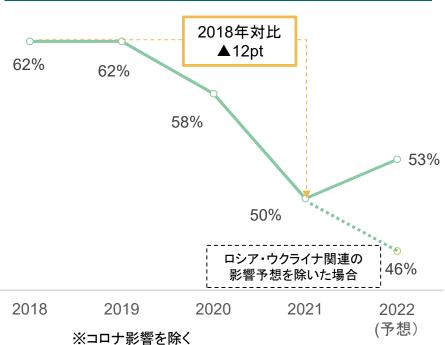
ハリケーン・アイダ再来を想定した正味損害額[※]



2018/1月 2019/1月 2020/1月 2021/1月 2022/1月 2022/6月

※北米自然災害の再保険特約に係る想定正味損害を集計

一般リスクの正味損害率推移



AAGの変革プログラム

- AAGでは、2021年度に新たな経営陣のもと、不採算種目の引受削減や料率引上げ等の収支改善取組に加え、 過年度ポートフォリオの備金水準の十分性確保と、今後の変動リスクへの対応の観点で、備金の積増を行った。
- 元受保険会社との長期的な関係を重視するビジネスモデルを軸に、2023年までに変革プログラムを通じた事業基盤の強化を行い、2024年以降に成長・拡大ステージへの移行を目指す。
- ポートフォリオの入れ替えを行い、ボラティリティが低く、資本効率の高い種目を増やし、安定的な増益を図る。

中期取組方針

新CEO着任(1月)

基盤強化のための変革プログラム立ち上げ(4月)

新たなブランド 「MS Reinsurance」 の使用を開始(9月)

MS ♠ Reinsurance

変革プログラム完了。 成長・拡大ステージへ移行

2022年

2023年

2024年

変革プログラム実行

ビジネスモデル変革

- 引受、資本、外部環境 に焦点を当てて、収益 性、資本効率性を改善
- 自然災害リスクのボラ ティリティ削減

オペレーティング モデル変革

事業の収益性を支える オペレーション(IT、プロ セス、組織・人財等)の 再構築

2022年の米国ハリケーンリスグ削減取組み

フロリダ州(6月更改): ▲75% 米国北東部(7月更改): ▲25%

※引受責任額ベース

一般リスクの正味損害率推移

